

たつの市

きのやまじょう 標高 458m／馬立地区登山口から登る
城山城 所要時間 6 時間（昼食・休憩込み）

難易度：★★★★★

古代と中世のハイブリッド山城



太子町

たていわじょう 標高 250m／若王子神社から登る
楯岩城 所要時間 3 時間

難易度：★★★

曲輪跡、巨石、古墳等の歴史が多く残る山城



楯岩城は巨石が楯（たて）のように並んでいることからその名がついたと言われる。別名、太田城。赤松円心の孫の一人にあたる赤松則弘が、建武年間（1334～1338 年）にこの城を築いたとされ、赤松一族の居城となるが、羽柴秀吉の播磨進攻で滅んだとされている。曲輪跡が非常に多く残っており、巨石も多く転がっていた。周辺には 4 4 基の古墳群もあり、城山付近からは須恵器の破片等も発掘できるそうだ。現在、本丸跡にはテレビ塔が設置されており、周囲の道はとも開けている。江戸時代は旗振り、狼煙の中継所であった。それほど難しい山ではない。山頂から下山の際の道間違には注意を。また、若王子神社からの登山道は斜度が急なため、足全体を地面につける方法で登り降りするとよい（フラットフィッティング）。

相生市

かんじょうさんじょう 標高 301m／羅漢の里登山口から登る
感状山城 所要時間 2 時間（休憩込み）

難易度：★★

雄大な規模と眺望の広域城郭



鎌倉時代に瓜生左衛門尉という人物が築いたと伝えられ、城名は建武 3 年（1336 年）、赤松円心の三男則祐が、新田義貞の軍勢をこの城で 5 0 余日にわたり足止めをした結果、足利尊氏より感状（感謝状）を与えられたことに由来するとされる。羽柴秀吉の播磨進攻で落城したと伝えられている。平成 8 年に国指定史跡とされた。登山道はきれいに整備されており、比較的登りやすい。岩の上を歩く際には滑らないよう注意を。規模が雄大で眺望も良く、建物跡や石垣など、遺構がよく残されている。石垣については築城当時のものではなく、戦国時代に改修されたものであると考えられている。その他、井戸や大手門跡も確認できる。羅漢の里から登れるため、羅漢の里もみじまつり（かかしコンテストで賑わう）の季節の登城がおすすめである。

赤穂市

あまこやまじょう 標高 259m／高野地区登山口から登る
尼子山城 所要時間 2 時間（昼食・休憩込み）

難易度：★★

清流千種川の向こうに瀬戸内海



築城時期の詳細は不明。天文 7 年（1538 年）の尼子氏の播磨侵攻により、一時尼子氏の城となる。城主は尼子義久とされる。この城を正面から攻めた毛利軍が、天然の要塞を攻めきることができず頭を抱えていたところ、尼子山麓の集落 佐方地区に暮らす老婆が抜け道を毛利軍に教えたためにそれが攻略の鍵となり落城した、という言い伝えが残っている。頂上から少し西に、なぜこんなに大きな岩がと思うほどの巨岩が露出しており、落下寸前の様相を呈している。これは城が攻められた際に山頂から岩を落下させ防いでいたことの名残と思われる。山頂に向かう道は、整備されており比較的分かりやすい。また海が近いため、途中から瀬戸内海を望むことができる。また、山頂の本丸跡には現在、尼子神社が鎮座されている。

宍粟市

ささのまるじょう 標高 324m／紅葉谷公園から登る
篠ノ丸城 所要時間 1 時間

難易度：★

黒田官兵衛「山崎の城」の推定山城



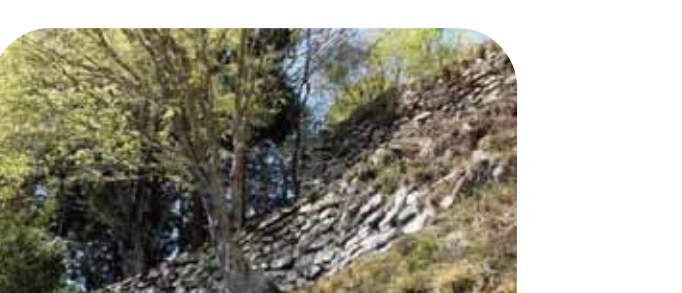
篠ノ丸城は赤松円心の孫の一人にあたる赤松頼則が貞和年間（1345～1350 年）頃に築城したとされ、羽柴秀吉の播磨攻めの際に、長水山城と共に落城した。『黒田家譜』に書かれた黒田官兵衛の居城である「山崎の城」と推定されているが、その確証は得られていない。地元で「もみじ山」として親しまれている最上山にあり、登山道はきれいに整備されている。本丸跡は広く、石碑等も建っており、二の丸からの眺望も良い。なお、山の中腹まで車で上がることも可能。遺構は土塁や堀切が主であり、石塁等の分かりやすいものが少ないため、整備された看板等で確認するのが良い。最上山もみじ祭りの時期の登城がおすすめである。

宍粟市

ちようずいざんじょう 標高 584m／伊水小学校登山口から登る
長水山城 所要時間 3 時間 30 分（昼食・休憩込み）

難易度：★★★★

播磨北西部 大規模な石垣の残る中世山城



長水山城は、南北朝時代に播磨守護 赤松則祐が築いたとされ、嘉吉の乱以降は宇野氏の城として使用された。宇野氏は羽柴秀吉の播磨攻めに最後まで抵抗したが、奮闘むなく天正 8 年（1580 年）に落城、ここに播磨の戦国時代は終焉となった。登山道の一部は平成 3 0 年豪雨の影響でかなり荒れているため注意して登ること。急勾配でもあるので、適度に休憩をとりながらゆっくりと登ることをおすすめする。山頂本丸の石垣はとても高く一見の価値あり。また見晴らしもよく、篠ノ丸城や聖山城といった山も見渡すことができる。本丸跡地には「信徳寺」というお寺があり、他の山城とはまた違った趣がある。

宍粟市

ひじりやまじょう 標高 168m／筆筆（ひちりき）神社登山口から登る
聖山城 所要時間 30 分

難易度：★

町並みを望む、秀吉軍本陣跡の城



戦国時代、下村氏によって築かれたとされる山城。現在の宍粟市役所東に位置する聖山に築かれた城である。天正 8 年（1580 年）の羽柴秀吉の播磨進攻の際、長水山城を攻めるため、秀吉の軍勢はまずこの城を確保した。この聖山城からは、長水山城、篠ノ丸城を望むことができ、攻略の際に非常に有用な城であったためである。秀吉軍はこの城に本陣を置き、まずは篠ノ丸城、続いて宇野氏が籠もる長水山城を落城させ、ようやく、播磨を平定したのである。平成 3 0 年 7 月の豪雨により、山頂に行くまでの道に倒木あり。ただし、山頂真下にある愛宕神社には登ることができ、山崎の町並みを一望することができる。この景色ならば攻めてくる相手も簡単に見下ろすことができたとと思われる、いかにこの城が戦略的に重要な拠点であったかを知ることができる。

佐用町

りかんじょう 標高 373m／現在登城不可

難易度：—

朝霧に浮かぶ絶景の雲突城



利神城は、南北朝時代に白旗城の北の守りとして赤松一族の別所政範が貞和 5 年（1349 年）に築き、城主は代々別所氏が務めたとされる。しかし、天正 6 年（1578 年）、織田方の尼子軍に攻められ、利神城は落城する。その後、関ヶ原の戦い以降、利神城の城主は池田氏となる。現在見られる城の姿は、慶長 6 年（1601 年）に城主の池田由之が行った大改修の名残であり、現在も高さ 1 0 m 近くの長大な石垣が確認できる。大改修当時は天守閣等も築かれており、その空に高く伸びる姿から、別名、「雲突城」とも言われている。平成 2 9 年 1 0 月に国指定史跡に指定された。ただし、石垣崩落の危険性があるため、現在は登山が禁止されており、麓からのみその姿を見ることができる。